



東陽の旋風 かぜ ～自律協働貢献～

令和7年1月17日（金）No 37 発行
文責：松本 卓也

輪 ～伝える、認める、つながる～

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす「令和6年度（2024年度）熊本県人権子ども集会」が、オンライン（オンデマンド）により開催されています。東陽中では、10日（金）の6校時に、全校生徒で視聴しました。玉名市立天水中学校での体験・活動報告では、「お互いの個性を大切に、一人一人が輝ける学校づくりをしよう」の生徒会三役テーマのもと、①絆プロジェクトリーダー、②縦割り班活動、③生徒・職員合同会議、④心のきずなを深めるプロジェクトの各取組を通して、生徒同士のつながりやなかまづくりを進めていきました。「自分から、そして身近なところから差別やいじめをなくす取組を一緒に進めていきましょう」と、力強いメッセージを伝えてくれました。

実行委員会の皆さんから、「集会を通して、参加者の一人一人が、体験・活動報告と自分の日常生活を重ねてほしいと思います。自分は、周りの人たちとどんなつながりを築いているのだろうか、自分にとって仲間というのはどういったつながりなのか、はたしてつながるとはどんなことなのか、今一度考えてみてください。そして、自分を見つめ、周りを見つめ、差別に気づき、なくしていく行動をしていくことで、身の回りからあらゆる差別をなくしていきましょう」との開会宣言がありました。ぜひ、今日の学びを日常生活と重ね、自分自身の行動を振り返ってください。自分を見つめ、周りを見つめることで、差別を気づき、なくしていく行動につなげてほしいと思います。



【視聴後の生徒の感想】

「今の自分は、思いを伝えようとしても伝える言葉が悪くて、相手を傷つけることがあるので、これからは言葉はそれでいいのかを考えてから伝えようと思いました。」

「一番心に残った言葉は、『最初は小さなつながりでも、最後には大きなつながりになる』です。私はあまりつながりがない人には話しかけられません。まずは、身近な人とつながり、そこから輪を広げていきたいです。」

「私も周りの人に思いを伝えた経験があります。返事をしてくれたことで、どう思われているかを知ることができました。その経験のお陰で友だちをもっと大切にできるようになりました。」



心を込めて文字を書く

校内書き初め大会を、14日（火）に実施しました。書き初めは、平安時代の宮中行事「吉書の奏」が、時代を経て江戸時代に庶民に広まったのが由来とされています。字の上達を祈願すると共に、今年一年の抱負・目標を定める意味合いがあります。1年生「不言実行」、2年生「新たな目標」、3年生「旅立ちの春」のお題を文字の大きさの調和や、縦の並びと間隔に注意しながら、心を込めて書いていました。字は心を表すと言います。日本古来の文化に触れ、「書」の楽しさを味わってくれたと思います。



認め、ほめ、励まし、鍛えて伸ばす！Part2

14日（火）から朝自習の時間にチャレンジタイム（5教科の基本事項を朝自習と家庭学習の時間を活用して定着を図る取組）を行っています。今回の教科は社会、47の都道府県に挑戦です。高校入試でも地図や地形図の読み取り問題はよく出題されており、都道府県はその基礎となるものです。「今回はチャレンジ賞（自己申告）はありません。満点賞をみんなで目指します！」と、社会科担当のM先生からありました。「認め、ほめ、励まし、鍛えて伸ばす」学び続ける東陽っ子を育てていきます！



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）